

国指定史跡 上神主・茂原官衙遺跡の時代

河内郡内に存在する複数の官衙 関連遺跡が意味するもの

上三川町には役場のほかに、生涯学習施設・福祉関係施設・学校・警察・郵便などをあわせると、30近い施設があり、皆様の生活を支えています。郡市の単位で数えてみると、数百の施設があることでしょう。行政サービスが多様化し、地域の実情に合わせたきめ細かいサービスが求められる現在、様々な施設が設置されることは、珍しいことではありませんが、1300年前はどうだったのでしょうか？

1300年前にも、一つの郡内に多数の役所が置かれることはあります。国府が所在する郡内には、国府に加えて郡役所も設置されますし、東山道・東海道といった官道が通っている場合は、仕事で旅する役人に馬や食料を支給する駅家うきやと呼ばれる施設が設置されます。未確認ですが、郡の下に置かれた郷（里）を統治するための役所が置かれることも考えられますし、広い郡内を治めるための出先機関が設置される場合も考えられます。

河内郡では今までの発掘調査の結果、郡役所に関連する遺跡が、上神主・茂原官衙遺跡を含め3か所で見つかりました。クリーンパーク茂原の場所にあった最初期の郡役所である西下谷田遺跡、石橋駅東口付近に広がる多功遺跡です。今までの分析の結果、本格的な郡役所として上神主・茂原官衙遺跡が完成したのと同時に、税

を収めるための正倉別院として多功遺跡も成立しました。その後、郡役所の主要機能が多功遺跡に移り、上神主・茂原官衙遺跡は正倉別院になったと考えられています。

しかし、この2遺跡の距離はわずか約3.5kmと近く、南北約35kmある河内郡を統治するための出先機関としては近すぎます。このことから、どちらかの遺跡が河内郡役所の出先機関としての機能を持ちながら、河内郡に設置された田部たべ駅家などの機能を持った複合的な施設の可能性があると考えられるのです。

通常国史跡に指定される際、遺跡の性格が明らかかな場合は「〓郡衙跡」というような名称にするのですが、上神主・茂原官衙遺跡の場合は「官衙」という幅広い役所を指す名称にしました。これは、河内郡衙跡の可能性があるものの断定できなかつたためなのです。これについては今後の調査で新しい資料が発見されれば、解明されるはずですが。



多功遺跡も河内郡役所に関する遺跡です

たね川柳

岡島秀宝 選

梅雨どきの洗濯ものの山の日々

石田 森山 アイ

ストレスの原因それはあなたかも

三村 上野久美子

美しくしき国に軍靴の音いらぬ

大町 小口 達子

趣味の竿良く似た親子川にいる

石田 高橋 世津

可愛くて飼ったペットを持って余す

上町 上野 広江

目印の一本杉も歳を取り

石田 前原 秀雄

冷やっこだけで一人の昼済ます

上蒲生 鶴見 敏子

